



湧雲

第6号

2014年8月25日発行

発行・北海道深川西高等学校同窓会
〒074-0012 北海道深川市西町7番31号
TEL 0164-23-2263 FAX 0164-23-2264

同窓生数
16,584名

デザイン・印刷・SALAT (株)サラト
〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel:079-284-1380 http://www.salat.co.jp

第四回

卒業記念植樹

「ドロノキ」

第66回 (H26年3月) 卒業予定者

前日は雨模様でぐずついた天候。当日の朝はスカッ晴れの快晴で真つ青な空は眩しいくらいだ。

参加者は山下校長・松本教頭・佐藤主任・高橋担任に生徒は8名。同窓会から岡部、平田、坪田、竹林、堀川、藤井、溝口であった。

朝はまだ爽やかな空気の中、風邪で具合の悪い中にも関わらず無理を押して出役していただいた岡部委員長。トラックに委員全員で乗り込んで修練道場の奥へと向かう。作業道の側溝に流れ込んだ土をビニールの袋に30個ほど詰め込んで植樹の覆土用に確保した。排水用のパイプの詰まりも解消し、一石二鳥となった。汗ばむほどの暑さの中、キタコブシ5本、ナナカマド5本、溝口宅の庭からカツラ3本を補植する。

植樹用の植え穴は三上さんに開けていただいたので



屹立する白樺



植樹風景

支柱を立てる作業と看板を立てる作業を行なう。手順良く作業は進む。事務局は学校に向けて生徒の受け入れ、堀川委員はハニーヒルに昼食の受け入れに共に出発。

生徒は男子4人、女子4人。11時30分過ぎ学校を出発。同時にハニーヒルに電話を入れて出発の連絡を入れる。着くと同時に食事の準備が出来ていて時間に無駄がなかった。予定より大幅に時間短縮で進行し、12:30には会場に着いた。若干、空は紺碧状態から薄く霞が掛かったような感じがするが申し分の無い日和で嬉しい。事務局から植樹に際しての説明を終えて作業に掛かる。

好天の影響かドロノキの真緑の葉が水分不足で縮れてしまっていたが、挿し木でも着くほどの強靱な木である事と覆土用の土が水分を多く含んでいる事、翌日は雨な事もあって大丈夫だと判断した。後日確認する。

植樹は終。もう一段上にある展望台に徒歩で移動。この展望台から学校を眺める。双眼鏡で学校の位置を確認するた

びに歓声が上がる。納内の町並みを眺め、深川の町並みを眺め話しているうちに話しは弾む。ここに居る時間のほうが長かったかもしれない。待ち合わせをしているバスに乗り込んで下山となった。

ドロノキは典型的な陽樹で開校当時の大先輩が石狩川河畔か

ら採取して植えたという樹で、泥くささも感じるが頑健で育ち易い。長くグランドを守ってきた事もあって、当校では由緒ある樹である。時を超えて再認識をしてもらう意味合いを込めて植樹していただいた。



第66回卒業記念植樹集合写真

「深川西高校に赴任して3ヶ月」

校長 岡戸 康浩



この度、日高管内のえりも高校から赴任しました。前任校は、町立の連携型中高一貫校で全校生徒120名の小規模校でした。深川西高校に異動が決まり、前任の山下校長から、素晴らしい学校だから安心して来て下さいと電話を頂きました。

実際に生徒と接して見ますと、素直な生徒が多く爽やかな挨拶をしてくれています。現在は各学年4クラスの中規模校ですが、至る所に開校77年目を迎える伝統を日々感じています。特に素晴らしいと感じていることは、昔ながらの連合組織で行事を行っていることです。5月のコーラス大会では、短い練習期間にもかかわらず素晴らしい歌声を披露してくれました。学校祭・体育大会と連合の取り組みを楽しみにしているところです。

さて、校舎の前庭は木々が緑豊かに生い茂っています。この保守管理や植樹に同窓会の方々が労を惜しまず取り組んで頂いていることに感謝いたします。先日全道大会の出場部活に対して、同窓会より激励のご厚志を頂きました。在校生の活躍を見聞きすることを本当に喜んでくれていました。お陰様でバトミントン女子(団体、ダブルス1、シングルス1)が全国大会出場を決めました。深川西高校ここにありと全国に名を知らしめることが出来ます。

本校に温かい眼差しを注いでくれている同窓生の期待に応えられるように、これからも職員と力を合わせて新たな伝統を築いていきます。ご指導・ご支援をお願いいたします。

桜花爛漫

又もやられた桜の園

一昨年、ウサギにやられたことで、ネットですっかりと防御した記念植樹の桜だったが返り討ちに遭い、見るも無残な姿になってしまった為、今冬は万全を期して維持管理にさらに改良を加えて知恵を絞る、委員一同、秋のネット巻きを入念に行なったのでした、にも、関わらずウサギに3本ほどやられました。野ねずみの被害は殺鼠剤の秋の散布で皆無となったものの、ウサギ追ひしこの山となった。

それでも春には立派に花を咲かせてくれました。但し、桜の開花に山道の雪融けが間に合わず、やっと現地に行き着いた頃にはネットから桜の花が覗いている状態でした。

これから先の管理がきちんと継続できるかどうかが委員会の今後の課題です。早く、桜の下で茶話会など開催できればと思っていますが…。



秋の作業風景



積雪面でウサギの食害

春の管理作業

2014/5/18

8時集合。雨の落ちそうな霧のかかる3度という気温の中、ネットはずし作業は手がかじかんて作業が中断するほどであった。手慣れた感じになってきた委員の手際が良くなって作業は順調に進んだ。ネットはずしに引き続いて追肥を入れて作業は終了。終了時には気温が2度まで下がり白いものが混じり始めた。自生の桜も花が寒さに震えている。記念植樹の桜も花が咲きかけているがやはり凍えている。桜の木の更新も数本必要だ。

下段の卒業記念植樹の縄はずしは低い事もあって腰を痛めた岡部委員長が執り行った。

結局、作業終了から夕方まで雨模様が続いたので運のいい時間帯に作業を終えてよかった。

後日、防除作業を行なう。



八重桜は数を増して



背丈にも伸びたアオダモ

宮脇記念桜報告

昨春は遅い春で平地でも5月17日の開花でしたが、今春は3日に開花。気温の上昇と共に一気に開花して散るのも早かった。昨年29日の開花の鉋路八重桜も今年は18日には満開となった。この時期としては珍しく温度の高い日が続いたため花の盛りも一気に進んでしまったのが残念であった。然し、3本とも花数が昨年より一段と増えてきたので来年以降がとて楽しみます。幹も太くなってきた、後は横への枝の広がりが出てきて、尚一層美しくなるのだがもう少し時間が掛かりそうです。



満開

ヤマボウシ植樹

日時：2014年5月4日(日)
午後13:30

参加者：岡戸校長、岡部、坪田、内村、堀川、藤井、溝口、三上

霧雨のような雨しか降らない日が続き、当日も好天の中で10年計画によるところの植樹を行なう。岡部委員長管理の自宅苗圃場で育成された「ヤマボウシ」5本を植樹しました。校庭東側の場所を選び生徒からも市民からも見える位置にポイントをつけ芝生をめぐって土を掘り起こしパーク堆肥を混ぜる。土地は一箇所を除いては地味も良く生育の良さをを感じる。順次植樹をして充分な灌水をして支柱を打ち込み、樹を固定する。全員で記念撮影。小休止して委員長自らが今年摘みたてのヨモギをついた御餅をご馳走になる。春の香りが漂う。

鉋路八重の根元に遅効性肥料を埋め成長を願う。順次、昨年植えたシラカンバ、エゾヤマザクラ、アオダモ、



ヤマボウシの花



植樹風景



植樹を終えて

シウリサクラ、ユリノキにも追肥を施した。山のサクラの管理作業を行なう予定だったが、山にはまだ雪が多くあつて近くにもいけないことから後日行なうことにして作業は終了した。

母校支援事業

掲揚塔用旗・フレックス・引継の作成

団体の取材を受けた場合フレックス旗に入りきらないことが多いことから一枠を少し大きくし全体を広げたサイズの幕を作成いたしました。これで写真に写したときにも溢れることなく収まります。又二枚になったことで重複するイベントにも対応できるようになりました。

掲揚塔用の校旗が不足してきただけで補充いたしました。一年間三六五日、風雨に晒され長方形の旗が三角になるほどに損傷が激しいことから交換頻度が高く、在庫がなくなつたために同窓会として応援をさせていただきました。

同窓のタペで最後に次期実行委員会への引継ぎがあります。今年から実行委員長用の襷を作成しましたので立派な引継ぎ式が出来ると思います。

同窓のタペでの引継ぎの様子は第七号で報告いたします。お楽しみに。

初事業・部活動

現在、全国大会出場の在校生に対して「激励金」を贈呈してまいりました。今期から全道大会に出場した部に対して些少ながら「激励金」をお渡しすることが総会で決議されました。対象は別枠掲載の全道大会成績一覧をご覧ください。初事業ですので役員出席で授与式を行いました。

全国大会出場の看板設置

今年もバドミントンで全国大会出場が決まり道々沿いに看板を設置しました。



激励看板今年も設置



全道大会出場各部長全員で



バドミントン全国大会激励9月

同窓会総会開催報告

【同窓の集い】

8月8日・第1回同窓の集い

打ち合わせ(プラザ富士屋) 本尾6期 実行委員長は畠野壺さん

9月13日・最終打ち合わせ

券集約等(プラザホテル板倉) 9月21日・同窓の集い

会場・プラザホテル板倉 参加者・212名

(完券枚数および263枚) 〔平成26年(2014年)〕

2月予定・北斗会第51回総会は都合で未開催

2月28日・同窓会入会式 入会者127名

3月1日・第66回卒業式 卒業生127名

3月24日・転出・退職教職員 送別会(溝口幹事長出席)

転出及び退職者 6名 プラザ富士屋

2、会報の編集

①本 号・8月25日第5号

(通算・第15号発行)

②臨時号・発行なし

3、母校の後援に関する事業

①10年計画による前庭の植栽の点検 (6年目)

②各部で活躍する在校生への支援

③10月14日・卒業予定者8名による 記念植樹「ドロノキ」

④プレス幕の貸与

⑤会旗・部旗、健闘幕 貸与

4、会員相互の親睦、交流に関する事業

①同窓の集い(上記報告)

②各支部現況報告(同窓会会報にて報告)

③各期の動き(同窓会会報にて報告、別添資料)

④名簿の発行 9月発行

⑤HPの管理と深川の紹介サイト「深ナビ」の情報更新

5、同窓会林に関する事業

①同窓会林訪問は今期も中止

②同窓会林の維持管理(別掲載)

③森林組合関係(事務連絡)

④5周年記録誌発行準備作業。

2014年春発行 6、その他、本会の目的達成のため必要な事業

①同窓の部屋の収蔵品の収集継続

今年収集した資料(学校より・関係諸行事発行資料)

②20周年記念誌・名簿・CDの在庫状況確認

③写真パネル：現有 90枚余所蔵、管理保管は学校。

計報・林 正徳監査役平成25年8月3日

平成26年度事業計画

1、会議・行事に関する事項

例年通り実施

2、会報の発行・名簿の作成事業

①第6号の発行予定

②会員名簿の発行(5年後)

3、母校の後援に関する事業

その都度、必要に応じて対応

第5回卒業記念植樹の開催：10月12日(13日)を予定。

4、会員相互の親睦、交流に関する事業

①同窓の集い実施

②タイムスケジュール決定 日程・平成26年9月20日(土曜日)

③実行委員会の構成：本尾「7」期

④実行委員長・17回生 中本 博さん

⑤実行委員会開催日程 7月下旬を予定

5、同窓会林に関する事業

①「緑の学び舎運営委員会」の運営・修繕道場跡、同窓会林訪問及び維持管理

②森林組合との情報交換。連携強化

③森林経営計画における必要時の森林経営委託契約

6、その他、本会の目的達成のため必要な事業

①同窓の部屋収納品収集(継続事業)

②卒業記念CDの管理(継続事業)

③必要に応じて写真パネルを追加作成

④20周年記念誌の復刻版の販売中(S 33年9月発行の記念誌)

⑤同窓会林に関する事業

①「緑の学び舎運営委員会」の運営・修繕道場跡、同窓会林訪問及び維持管理

②森林組合との情報交換。連携強化

③森林経営計画における必要時の森林経営委託契約

④その他

⑤同窓会林に関する事業

①「緑の学び舎運営委員会」の運営・修繕道場跡、同窓会林訪問及び維持管理

②森林組合との情報交換。連携強化

③森林経営計画における必要時の森林経営委託契約

④その他

⑤同窓会林に関する事業

平成25年度 決算報告

収入の部

項 目	金 額	備 考
前期繰越金	14,751	
入 会 金	174,000	116×1,500円
振 替 金	450,000	基金会計より
雑 収 入	518,614	会報売上・寄附金
合 計	1,157,365	

支出の部

項 目	金 額	備 考
総 会 費	91,402	
役員会費	25,935	
会 議 費	77,752	
交 際 費	192,340	全国大会、歓送迎会
事 業 費	687,443	会報等
通 信 費	19,485	
印 刷 費	11,200	
事 務 費	0	
雑 費	3,990	
次期繰越金	47,818	
合 計	1,157,365	

各期動向報告

(カッコ内は情報提供者・敬称略)

〈旧中一期〉

八十八歳からの年齢になり、連絡が取れない状況です。自然消滅。

〈旧中二期〉 (旧制深中2期会)

平成14年を最後に同期全員の開催を取りやめとし以後2、3年ごとに有志で開催していましたが、さらに老齢になり、会の集まりも不自由になり開催なし。同期の情報を頂いていた横山 猛さんも他界しました。

〈旧中三期〉 (旧制深中3期同期会)

毎年開催。十七年には記念誌を制作。十九、二十、二十一、二十二も九月札幌にて開催。危ぶまれた二十三年、二十四年も十月に開催。二十五年十月開催を最後として区切りをつけた。(今までの事 今後の事 後輩へとしてメッセージを別欄記載) (三浦巧丸)

〈旧中四期〉 (旧制深中4期生)

平成十五年と二十年中島武敏元代議士を囲んで(ふれあい会館)集まる。全体の集まりは高齢の為、開催していません。(前田正太郎)

〈旧中五期〉 (旧制深中5期会)

毎年開催。十五年鎌倉。十六年函館。十七年札幌。十八年美唄。十九年六月深川。十月台湾へ修学旅行。二十年には開校七十周年記念に合わせ式典終了後開催。二十一年以降は津田氏が亡くなったため、札幌・平林さんが後を引き継ぎ札幌で集まっているが、集るのが難しくなってきたため記念のエッセイ集を出した。(別記載)

〈二期〉

平成六年岩見沢市、七年滝川市、八年幌新温泉一泊、九年箱根・東京二泊、十年深川市、十一年定山溪温泉、十二年滝川、十三年岩見沢。十四年深川、十五年札幌 十六年滝川、十七年札幌開催を最後に取りやめ (中村隆志)

〈二期〉 (旧制中学7期・深川西高2期の集い)

十七年は五十年を札幌にて八月開催、五十人参加。二十年旭川。二十三年九月五日深川で開催。(手島 克)

〈八期〉

不定期開催。二十年六月札幌第一ホテルで開催。高齢となり最後の同期会と言うことで六十五名参加。それ以後は各クラスやグループが少人数で開催。二十一年八月深川在住者。九月には札幌で開催した。(大井信之)

〈九期〉

十年深川・十二年旭川・十四年札幌・十六年北竜。十八年東京。毎年開催の意向を受けて十九年秋に定山溪、小樽。十九年三月深川在住者で開催。二十年九月深川開催・「ゆう&ゆ」に四十七名。二十三年九月四日 沼田ほろしん温泉にて全体の同期会を開催しました。二十四年五月八日、東京方面で「ミニ同期会」五月九日市内在住者の「ミニ同期会」でパークゴルフの会を開催。秋には東京で全体の同期会を開催。本年は七月十日旭川で開催(別欄にて詳細掲載) (倉嶋克郎)

〈十期〉

五年に一回の開催。十五年六月に四十五周年記念として北広島で開催。二十三年十月二十日定山溪温泉にて五十八名の参加で旧交を温めました。(星野友雄)

〈十一期〉

十二年八月還暦記念を深川で開催、十六年は八月札幌七十名。十八年十月深川で開催。二十年札幌。毎年、今年こそとの開催予定がお流れとなり先の見通しが立っていません。(山森津子)

〈十二期〉 (西高35年卒同期会)

十三年秋、還暦同期会を開催、参加五十八名。十八年小樽にて開催。二十二年六月深川にて開催。(板倉克宏)

〈十三期〉 (二六会・サボロウ会)

H十年HP開設 M.L(倉山昭男)
<http://www2.big.or.jp/~yycclub/>
<http://www.egroups.co.jp/group/36KAI>
十四年六月還暦記念同期会を開催、板倉。二十年開催。二十二年六月秩父別温泉「ゆう&ゆ」で開催。(佐藤豊秀)

〈二期〉

十四年八月。十八年八月開催。二十三年八月十三日深川にて開催。二十六年九月二十日札幌にて開催予定 (梶川 寛)

〈二期〉

十二年卒後三十年で開催。参加六十名(日の出)。二十年八月札幌開催。(寺岡義人)

〈三期〉

十三年八月に三十年を記念して札幌にて開催。出席者八十余名。

二十四年六月三十日板倉にて卒後四十年を記念して開催。(響田光章)

〈四期〉

十四年札幌、十六年六月深川(日の出)にて開催三十五名。十七年六月札幌にて連続開催。二十年六月「まあぶ」にて開催。二十五年十月五日、京王プラザホテルにて卒業四十一年で開催しました。(別欄にて詳細掲載) (東出周子)

〈五期〉

十四年十一月に札幌にて開催 七十名参加 (佐藤賢治)

〈六期〉 (49年卒業同期会)

十六年は卒業三十年で九月札幌にて開催、百名参加 (小林健二)

〈七期〉

十六年一月二日開催し七十四名参加。今年開催の予定 (中川博行)

〈八期〉 (第28期同期会)

三回目となる同期会を十七年八月板倉にて開催。百名を超える参加あり。五年ごとに開催。第四回目の同期会を二十二年八月札幌にて開催。(増永博志)

〈三期〉

卒業二十年を十一年に深川で開催。百十名。卒業三十年を記念して二十一年に出席者八十名で開催。二十六年十月に開催予定 (宮沢孝司)

〈三期〉

二十四年一月二日、板倉にて二十八年ぶりに

支部報告

旭川支部 総会報告

第一回 五十三年一八〇名
第二回 五十五年一二二名
第三回 六十二年一六名
第四回 平成十三年一二〇名
この後開催がありません。

小樽支部

支部長・秋山会長死去につき後任会長は未確認。

東京支部 総会開催

第17回総会は19年9月29日開催。当番期は49年(26)・50年(27)卒業期が担当しました。参加者は71名。
第18回総会は2年半ぶりの開催でした。22年6月19日に開催。当番期は51年(28)・52年(29)卒業期となっていました。幹事が構成できず50年(27)が担当しました。参加会員65名。第19回総会

【開催日】平成26年6月14日(土)
16:30~18:30 晴れ

【会場】霞が関ビル35階 東海大学学友会館 『望星の間』

【参加者】65名

4年振りの開催となりましたが、梅雨の晴れ間に盛会に終わりました。関東甲信越を中心に、1,300名の卒業生に開催案内状を郵送。昭和20年卒業の旧中3回生・村中先輩以下、昭和61年卒業の38回生まで、65名の皆様の参加を頂きました。会場内では深名線の記録DVDを流し、蘇る記憶を巡らせながら、懐か

毎年秋に開催。東京、札幌、深川持ち回り。
十二年は卒業五十年で札幌、十三年はホテル館、
十四年は東京、十五年は札幌、十六年は深川。
二十年「喜寿の集い」をもつて期友の会を打ち上
げしました。その後、関東、関西、北海道全域か
ら同志が集まり一泊どまりで温泉旅行を開催二十
名参加。今では百八十名居た同期生も百四十名位
が出席不可能な状態です。全員二十三年の誕生日
で八十歳。最終サバイバルにさしかかりました。
情報の提供を頂いていた同窓会・監事の林 正衛
さんは他界されました。

〔三期〕
東京は毎年開催。札幌は随時開催。深川は三名
ですが元気なし。平成十二年を最後に開催してい
ない。(島田克之)

〔四期〕(深川西校第4期生同期会)
札幌が中心になって毎年開催しています。十六
年札幌は六月、東京・四葉会は一月に開催。十七
年は六月札幌、十八年札幌開催。十九年五月定山
溪で、卒業五十五年で偶然にも五十五名が参加。
二十年六月札幌。二十二年六月「喜寿を祝う同期
会」を開催。同期生全員に案内するのはこれが最
終回でしたが二十三年六月二十日開催。二十四年
も六月に開催いたしました。(佐藤範子)

〔五期〕
不定期開催。

〔六期〕(西高29会)
深川組は十四名。毎年旅行を実施してきたが最
近は昼食会やパークゴルフを行っています。札幌
勢は年に六回集まり、東京勢は年一回集まる。
全体での開催は十七年札幌が最後。深川支部は
二十九名なので毎年六月二十九日に開催していま
す。二十二年は都合により二十九日開催が出来ず
十九日の開催となりましたが二十三、二十四年、
二十五年は二十九日に開催できました。自分達の
今後のこともあつて市内の老健施設の見学を事業
に取り入れて開催、二か月に一回の会報発行は継
続しています。二十二年五月には札幌支部の総会
も開催され深川からも数名参加しました。(平田廣美)

〔七期〕(深西7期同期会)
三年毎に旭川、深川、札幌と持ち回りで開催し
ている。十四年深川で開催、板倉に六十人参加。

〔十四期〕
十六年五月還暦同期会を開催。深川ホテル
二十年二月天人峡パークホテル。二十一年九月
十三日深川にて開催。同期生七十六人、恩師三名。
二十四年九月十三日札幌支部による發起人で開催
(堀川勝之)

〔十五期〕(深西38会)
以前は五年毎に開催していたが間隔が狭まっ
た。十年は十一月、十五年は札幌で開催。十七年
十月九日開催。十九年九月旭川開催。二十一年十
月定山溪グランドホテルで開催、六十三名が出席。
二十六年に開催予定 (杉山一成)

〔十六期〕(深川西高16期卒業同期会)
五年毎に開催。十一年から三年毎の開催にしま
した。二十年九月開催。二十三年十月十日板倉に
て開催しました。次回は二十六年六月二十二日に
卒業五十年で開催。(別欄にて記載) (星野 孟)

〔十七期〕(高17期同期会)
十二年に板倉、十七年八月板倉で開催。四年に
一回。(濱田靖夫)

〔十八期〕(猪子会・いのね会)
十七年九月札幌にて開催六十名。二十年十月
富士屋にて開催六十名。東京組は毎年開催で二十
年は九月。札幌組は随時集合。深川組は毎年夏
冬と開催している。
二十三年十月十六日 札幌にて開催。二十六年
七月十二日開催。(深沢倬子)

〔十九期〕(深川西高19期卒業同期会)
五年に一回の開催。十七年旭岳のふもと湧駒別
温泉で開催。登山も兼ねた。二十年は「ゆう&ゆ
で還暦同期会を十月開催。二十五年九月二十三日
北広島にて開催。(佐藤正光)

〔二十期〕(深川西高第20期同期会)
四年に一回の夏期五輪開催年に合わせて開催
しています。十二年六十名参加(深川ホテル)
十六年は八月に開催した。二十年八月深川で開催。
東京組は二年毎に開催。二十四年八月四日、深川
板倉にて開催、五十九名出席。道内在住者の有志
で親睦ゴルフを毎年盛会の中に開催しています。
(小川広見)

八十五名の参加者を得て開催しました。(三上貴康)

〔三期〕
二十三年八月十三日、板倉にて開催。
(水上真由美・久保田隆之)

〔四期〕
卒業二十年を十四年に深川で開催。

〔五期〕
卒業十五年を十年に深川で開催。
(田中一幸)

〔六期〕(深川西高36回生同期会)
卒業二十年で十六年二月板倉にて開催、九十九
名参加。
卒業二十五を二十一年一月に開催。二十三年
十月一日に第三回同期会を開催致しました。深川
西高校(第三十六期生) 掲示板を開設中です
(渡辺哲男)

〔七期〕
十四年に板倉にて開催

〔九期〕
十三年二月、日の出会館で開催参加、四十四名

〔四一期〕
二十一年一月二日に開催。二十五年七月十三日
に開催予定 (佐藤之彦)

〔四四期〕
二十三年一月開催

〔四六期〕
二十三年四月に第一回を板倉にて開催。当初
五十名以上の参加申込が東日本大震災の被災地支
援の関係から消防、自衛隊など関連に勤務してい
るメンバーが参加できなくなり四十名余の参加と
なった。(佐藤自真)

〔五四期〕
二十三年六月十三日、ブランシュネージュに
五十人が集合。(及川賢二)

しい風景、故郷に思いを馳せる一日
となりました。
また、昭和53年卒業の30回生以降
10名の参加もあり、次への引き継ぎ
も出来そうです。(中村欣也)

滝川支部 【北斗会】

平成二十五年二月二十四日・三浦華
園にて、第五十回記念総会を開催。
会長 境 和一
副会長 岩田兼一・熊本智暉
幹事長 沼田達雄
幹事長代行 下道敏之
平成二十六年は開催できず。

秩父別支部

支部長 早川 正剛
事務局 尾垣 義次

ご協力いただいた期の幹事の方や世話人の
方には大変お世話になっています。

例年通りですが、記載の情報はこの十五年
間の積み重ねです。前年までの情報に新たな
情報を追加しているだけです。事務局では記
載の期以外は把握して居ません。きつと開催
しているところもたくさんあるのだらうと思
います。情報の収集に努めていますし、各期
の協力者を探し支援をいただきながら、それ
ぞれの期の動向が今以上に判明するように努
力していますがなかなか望みがありません。
情報をお寄せいただければより充実した会報
になるのですが。

それぞれの期の幹事・連絡者の方には最新
の情報を総会の案内の返信欄に記載してい
ただければありがたいと思います。ご協力よろし
くお願い致します。



我らの同期会

同期会に区切りをつけて た今、後輩に寄せて

旧制深川中学第三回生の二言

旧中 3 回生 村中末隆（S 20 年卒業）
吾等第 3 回生は平成 25 年 10 月 5 日 ついに最終回の同期会を開催致しました。同期会会報『湧雲』に小史を寄稿しご報告申し上げます。

当日の出席者 18 名《在籍者 42 名》。米寿を迎え、又、迎えようとする老輩どもは長き人生の思い出を交々に、満面嬉々として声高に再会の感動を交歓し、総会の席に着きました。

『先ずもって 63 名の物故者の冥福を祈る。』ついで総会の議事進行となりました。世話人代表・堤君から『60 有余年の誼を称え、厚い絆を感謝する』との挨拶があり、会計担当・山岸君から『各位の協力があつての日まで来たことにお礼を、なお本日は残預金すべてを二次会の費用に充当をもつて終了する』と報告されました。『同感慨無量の面持ちながら大拍手を以て賛同、以て公式行事を終え、宴会の席が展開されました。』

今後について、その第一は『形式的には終わりとなるが同期の絆を忘れないこと』『札幌に来たとき、深川に来たとき、東京に出たとき、必ず誰かに二言の挨拶をしようではないか』と異口同音に交歓された。

その第二は『同期会との繋がりを大事にしよう』。深川在住の諸兄に負うことになろうが同期会名簿登録と同期会会報（湧雲）の購読の奨めがありました。

さて、公式の議事が終わる宴会の席になりました。総会は平成 11 年以來 15 年間、札幌ホテルガーデンパレスを利用して来ました。最優良顧客と目され、日程の取り

決めるは優先的に扱われ、献立の仕立は多少予算を超えても良質なメニューが提供された。寸感として量的に多目かと思われたが、健康家ぞういでの料理皿も残りものがなかった。ただ 4、5 年前と比べて酒量が減った印象で年頃を感じた。往年血氣盛んな時代には、必ず酔いつぶれが 2、3 人出たが行儀良くなつたものではある。

話題はお互い良くぞ生きながらえてきたものだ。ありがたいことだといひながら、さていつまで永らえるか、次の東京オリンピックまで頑張ろう、となると「そうだ！そうだ！」と唱和する勢いは見えなかった。会の始まる前に大川カメヲマンが記念写真をとった。焦点合わせに時間を要したが出来上りには立派で、背筋がピンツとしており戦中派の顔つきで後期高齢者とは思えない氣骨と面構えがうかがえます。

さて二次会に席替え、珍しく全員が参加。ホテルの地下の道産子料理店（きたぐに）へ。幹事の計らいで剰余金全額費消すること、好き放題の飲み食いした席となつた。二次会の行儀よきから変じて「俺」「貴様」の情景を展開していた。お互い耳が遠くなつてゐる所為で大声の掛け合い、呂律は確かで時には大笑いが入り、元氣洩刺さほども八十路の連中とは思えない情景を繰り広げていた。普段疎外され勝ちな老境の身、鬱憤ばらしの機会になつたのであろう。戦中派の真つ只中の青春時代育ちの所為か、モク（タバコ）の話はあつても艶話ロマンチックな話題が出ないのが寂しい想ひがある。

一次会、二次会を通じて 4 時間を超えた最終回の同期会。また会う日を願ひながら何回も握手を交歓し、あるものは抱擁を交し、幕を下ろした次第であります。この寄稿の最終章として 3 回生のプロフィールを（私見ながら）記述したい。

【入学の記】

吾等は昭和 15 年 4 月、競争率 2 倍の入

学試験（筆記試験がなく内申と面接試験）にパスして入学。当時は深川町立北空知中学と称し、新設間もなくの 3 回生、入学生徒数 119 名。2 組編成で、北空知 10ヶ町村から選抜された未だ童顔の面影を残す生徒達。アイウエオ順の学籍簿の名前と希望に燃えた顔立ちを空にしている。

校舎は新築間もなくして木の香りが残り、一人別のデスクと椅子、真新しい教科書特に濃緑の表紙装丁の英語読本には興奮を覚えた。学科ごとに教師が変わり、勉学への意欲が湧いた。級長には 1 年 1 組は沼田小学校出身の今村光男君、2 組は納内小学校出身の齋田慶乗君が任命された。輝やかにしく羨望の念を抱いた。

【教師の記】

初代・古野俊清校長は広島高師卒。数学科専攻、氣骨の人。新設の学校運営に最適の方。教師陣に高師卒を核にした人材を確保した功績は大きく、我々生徒にとつて多大な学恩を残した。1 年時の国語の芦沢先生、英語の篠塚先生、数学の斎藤先生、物理の竹内先生、その他教科ごとの先生達は、そのツクネームとともに脳裏に残っている。

【学期試験】

中学校は勉強するところ。当たり前のことで 1、3 学期ごとに中間試験と学期末試験が行われた。学年末に総合評価の学籍表が渡された。1 学年から 3 学年は 100 点満点の絶対評価。4 学年から秀・優・良上・良・可・不可の相対評価に変わった。その他、操行評価・席次が表示された。付記として、1 学年の 1 学期の学籍表について、出身小学校の校長査閲印が求められた。以上は、現在手元に残された通知箋に基づいたものであるが、最終の 5 学年は未確認ながら資料が残されていない。

【最終学年卒業の記】

最終学年は昭和 19 年 4 月、20 年 3 月。大東亜戦争の最終局面にあつた。国家総動員体制下、勤労奉仕に出動した。個々の農家に泊り込み、または集団宿泊して除草作業、稲刈り作業に従事した。農家出身は慣れ仕事ながら深川の町子には苦痛であり能率は良くなかつた。体よくサボるものがいた。5 学年の中頃から局面が大

きく変わり、重労働に変わった。

そのつは 8、9 月の間の集団生活で北見丸瀬布の造材現場、その後は冬季寒中、沼田の石田の澤で砂白金の採集作業に従事した。そのほか春の鬼鹿の罾場作業、滝川の人造石油工場の物語があつたが詳細は割愛する。

総じて言うならば、5 学年は学業休止の時代であり、時過ぎて卒業の日を迎えた。卒業式は講堂が軍需物資の倉庫になり使用できず中庭で行われた。私ごと、1 月に陸士に早期入学したので卒業式情景は知らない。雪のよき時代の感動はない。戦中、戦後の渦中であつて進学を果たした者は 4 修で 5 名、5 卒で 26 名であつた。軍関係では戦死又は戦病死 2 名、軍関係で復員の遅れた苦難の士もいた。

いま手元に卒業記念写真がある。撮影時期が不詳ながら松本校長始め 5 名の教師を囲み 71 名が居並ぶ。入校時 119 名から 48 名少なくなつてゐる。ここに語りつくせない小史があり感無量である。

【同期会の足跡】

第 1 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 2 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 3 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 4 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 5 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 6 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 7 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 8 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 9 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 10 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 11 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 12 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 13 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 14 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 15 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 16 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 17 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 18 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 19 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 20 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 21 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 22 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 23 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 24 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 25 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 26 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 27 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 28 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 29 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 30 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 31 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 32 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 33 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 34 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 35 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 36 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 37 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 38 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 39 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 40 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 41 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 42 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 43 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 44 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 45 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 46 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 47 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 48 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 49 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 50 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 51 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 52 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 53 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 54 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 55 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 56 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 57 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 58 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 59 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 60 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 61 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 62 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 63 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 64 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 65 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 66 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 67 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 68 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 69 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 70 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 71 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 72 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 73 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 74 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 75 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 76 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 77 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 78 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 79 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 80 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 81 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 82 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 83 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 84 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 85 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 86 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 87 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 88 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 89 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 90 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 91 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 92 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 93 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 94 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 95 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 96 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 97 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 98 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 99 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室
第 100 回 昭和 21 年 1 月 3 日 母校の教室

念誌《俺の二言》を発行した。吾等の集大成が凝縮されており、『創刊号・俺の足音』と併せた 3 部作は、吾等にとつて永久保存に値する。

《同期会に望むこと》

わが同期会の歴史はまだ二世紀に及ばないが、偉大な足跡を重ねて来ました。その歴史を語る旧制中学の 1、5 回生は今尚健在であり、同期会に寄せる懐旧の念は厚い。今手元に昭和 43 年発行の『同期会名簿』があり、同期会草創期の先駆者として會長伊藤允氏ほか旧 3 回生稲垣、豊・利波清二の両氏が役員として登載されている。私ごと、昭和 45 年 4 月、同期会東京支部を立ち上げる際有力な基礎資料になりました。先人のご苦労に感謝申し上げます。次第であります。

創立 100 周年を展望して同期会の一層のご発展と同期生諸兄姉のご健勝とご多幸を衷心から祈念いたします。

一つの願望として、歴史を知り、歴史を語る旧中の同期生の特別企画を提言して筆を擱きます。



後列左から大川、堤、加藤、関、松田、丹、利波、原田、川西、三浦、山岸
前列左から我部山、谷川、丹、村中、川井、酒本、杉村

第九期生同期会

9期（昭和32年卒）の同期会が7月10・11日旭川・扇松園に39名の仲間、恩師・津田（満田）先生を迎え開催された。今回は11回目。

津田先生、84歳になるも少しも衰えを見せず、遠く兵庫県より馳せ参じ挨拶に立った。先生曰く「君たちも後期高齢者になるが、これまでと何が変わるか。まあ、健康保険料が高くなる事位か。大阪より飛行機で来たが北海道の眼下は一面農作物が見られ、知事を始めPPP参加に反対する気概を強く感じた。日本の食糧は日本で賄う事、その為には自給率の向上が大切」と、社会科の講義を五十余年振りに受けた。2年ぶりの再会、夜を徹しての語らいに第一線を退くも夫々趣味等を活かした毎日である事、健康に感謝し元気で又の再会を約し散会した。

（倉嶋 克郎・記）

卒業五十年・同期会

平成二十六年六月二十二日
深川西高第十六回卒業生・

同期会 第十回同期会
札幌・ホテルノースシティにて

六月二日、札幌市内のホテルを会場として、卒業後五十年の同期会を開催しました。

私たちが卒業したのは、昭和三十九年二月二六日、二七七日でした。卒業後、有志の集まりが行われていましたが、昭和五十九年に同期会を開催したときに、代表幹事などの役員を決め、組織的な同期会と発足し、五年ごとに開催してきました。その後、平成十一年以降は三年ごとに開催してきました。

今回の同期会は先生四名、同期生五二名、五六名の出席者でした。会場の壁などに、深川西高同窓会の「プレス幕」を掲げ、欠席者の返信ハガキ、卒業当日

の「深川西高校報」、「深川西高新聞」を掲示し、同窓会発行の記念誌、名簿などや、過去の同期会の集合写真も用意しました。出席者はこれらのものを熱心に見ていました。

午後二時の開会にあわせて、道内、遠くは東京、大阪などから集まってきた同期生は、受付で名札と同期生名簿を受け取り、クラスごとの卓に座ります。初めに、同期会代表幹事星野孟氏が、歓迎のことは、卒業後五十年が過ぎたこと、楽しくひとときをすごしていただきたいとの挨拶を述べました。次に開会の乾杯を、八十八歳の沼田一夫先生が、スピーチと共にすすんでくださり、宴に入りました。出席の先生は、金倉義慧先生、田中芳雄先生、戸田輝雄先生です。開会三十分後、別室で集合写真を撮り、写真は閉会時に出席者に渡されます。約四時間の間、一人ひとりの近況から、クラスを越えての語り合いなど、そして、卒業アルバムのスライドショーで、五十年前に自分に会うことなど、話は尽きないなかに、閉会となりました。次の同期会にまた元気で会いたいという気持ちで、おたがいに伝えながら、別れて行きました。次回開催は二〇一七年となります。

（星野記）



第十九期同期会

平成25年9月23日・24日 14:30 受付開始 15:45 記念撮影 16:00 一次会
北広島クラッセホテル12Fスカイラウンジ「エルフィン」

恩師、田中芳雄、長山征四郎両先生を迎え71名の参加。司会進行・寺下良一君、今回の代表・竹内修一君の挨拶と続き、両先生から一言を戴き宮部久美子さんの発声で宴に入りました。各組毎の記念写真、出身中学校別の近況報告、校歌合唱等65歳を迎えた高齢者達は五十川洋子さんの締めでいったん終了。

二次会は3F「クラッセホール」に移動し、佐藤正光君の進行で再開、細川明郎君の乾杯に続いて近況報告の続きを披露し、林雄三郎君のお開きの締めで夜更けまで交流懇親を深めました。



第二十四期同期会

中締めは村岡宏一さん。彼も本州で活躍していたのですが、訳あって深川に住居を構え深川市民として生活しております。彼は感極まって目から水滴が溢れたようです。

二次会に席を移し女長道和一さんの一言で又飲み直し。そのときは既に皆さん41年前にタイムスリップしており、高校生活の話題で盛り上がりました。遠足の時の話、クラブ活動の話、クラス対抗バレーボール大会、縦割り演劇大会。そして学校祭での行燈作り、カレーライスを作った販売したことなど話は付きません。そして二次会も終わりです。終わりの言葉は村中敏夫さん。音江在住で音江の土地は一坪4千円だ！みんな定年になったら音江で家建てなさい。百坪買っても40万だぞ！の言葉で締め、再会を誓って全てが終わりでした。

健康が一番、14名の物故者の冥福を祈り、24期同期会の報告と致します。

（大平由美子・松永章宏）
（今回は平成30年開催確定）



深川西高等学校「緑の学舎運営委員会」

〈25年度・事業報告〉

- ◎ 25.2.14 無花粉シラカバ手配
- ◎ 25.2.27 第一回運営委員会 市場会議室
委員改選、今期事業、記録誌発刊
無花粉シラカバ 5本予定
- ◎ 25.3 多雪の為校庭の樹木被害を受ける
- ◎ 25.4 山麓の桜がウサギの被害を受けた報告を聞く
- ◎ 25.5 雪融けが遅れる
- ◎ 25.5.11 シラカバ植樹、雪囲い撤去。オシロとモクレン処理
- ◎ 25.5.13 蝦夷山桜、シウリサクラ植栽
- ◎ 25.5.28 釧路八重開花
- ◎ 25.6.9 山で春作業 雪囲い撤去、防除作業
- ◎ 25.6.16 21日と校庭のオオクロアリ防除
- ◎ 25.6.27 山で防除作業
- ◎ 25.9.11 編集委員会 頁数・写真数・金額・部数と配布先
- ◎ 25.10.14 第四回、卒業記念植樹（66回生）「ドロンキ」
卒業予定者8名
学校関係者4名 同窓会 7名
- ◎ 25.10.23 秋作業 殺鼠剤、ネット巻

- ◎ 26.5.18 音江山桜ネット外し
- ◎ 26.6.2 防除作業
- ◎ 26.6 ヤマボウシ植栽に灌水

【校舎周辺】

- ◎ 母校の植栽木の生育、安全等の確認
- ◎ 10年計画による植栽木、老木を更新する予定。ヤマボウシ植栽5本
- ◎ 宮脇サクラの管理

【記念植樹地】

- ◎ 記念植樹の桜の追加と管理
- ◎ 現地整備 駐車場の確保・植栽周辺の環境整備
- ◎ 植樹後の管理作業

【同窓会林】

- ◎ 希望者対象者の修練道場、湧雲の白樺見学サポート
- ◎ 湧雲の泉の管理・・・水質検査の実施
- ◎ 間伐地の管理、作業道の管理
- ◎ 学校林作業道の排水管理

【卒業記念植樹】

- ◎ 第5回の卒業記念植樹（67回生）

【研修会等及び啓蒙事業】

- ◎ 林産試験場視察
- ◎ 他団体と協賛事業「山野草を巡る集い」
6月18日

【記録誌編集事業「緑魂は時空を超えて」発刊を終えて】

- ◎ 「あれからの一年」のとりまとめ

「緑の学舎運営委員会」五周年記録誌発刊される

かねてから企画中の特別委員会の5年間の記録を纏めて発行する事業も漸く終点に迫り着きました。予定よりページ数が増えたものの割愛できる部分が少なくて窮余の策として文字のポイントを小さくして何とか納得の行く形で納めました。見づらいい面もあると思いますが、限られた予算と残しておきたい記録との狭間で揺れ動いたことを了解していただきたいと思います。

学校創設以前から開校時の緑の環境を中心に現在までを纏めました。残された記念史を元にして古い資料を集め、初めて見聞さする部分も多いと思います。カラー写真をふんだんに挿入してあり、見ても納得できる冊子に仕上げましたので手にとって見てみる価値は充分あり満足していただけたと思います。A4判・154Pです。

又、「追憶」として開校の功労者・宇佐美常次郎氏の軌跡と功績にも光を当てて紙面を取りました。ぜひ読んでいただければと思います。残部数も同窓生、関係者の皆さんにご協力をいただいて500部作成した記録史も60部ほどになりました。希望の方がございましたら一部1,000円にて頒布しています。費用の半分は同窓会にて負担していただきました。

振込先は別枠記載の20周年記念誌の複製版と同じ振込先です。



再訪・音江山麓の山草を巡る集い

同窓会林の存在と植生の豊かさをもっと知ってもらいたいと同窓生を対象に始めた事業だったがフラワーマスターの会の協力を得て6月18日に開催した。5月は好天に恵まれて、花も木々も前倒しで成長が早まり、あっという間に花期が過ぎて行く。6月2〜4日頃は真夏日になったが、翌日から観測開始から初記録ともなるという長雨に見舞われた6月となった。時折日は射すものの続かないのはこの日も同じであった。

前日に「雨予報なのでどうしますか？」との思案の電話があつて、「車窓からでも巡ることの出来るコースを用意したので決行します」と返事をする。

朝、予想通り、どんよりとして山はほとんど見えないが、集合場所のまわ駐車場に全員集合。2台の車に分乗してスカイライン入口看板を右に見て坂道を下り。早速、眼下に絡みついた木を凌ぐ勢いでマタタビが盛り花を思わせる形での出迎えを受ける。数日前まで真っ白だったのが今日はややピンク色に変わり恥じらいを見せている。山道脇のトドマツ、カマツに絡み付いているツルアジサイが花期を迎えている。足元にはツタウルシの幼木、大きいのはツルアジサイと争うように樹を纏い合つて太陽の陽を求めている。イワガラミを探すのがなかなか見つからない。道路脇の沢筋ではサンカヨウの実が花期を終えて緑色から少し色が変わり始めていた。季節は一日一日と様相を変えている。

分岐点に生えているノビネドリは余りにも道路脇なのでそのままスルーして直進。車跡の2筋の線がくっきり残る程のヒメヘビイチゴの絨毯を進むと修練道場からの法面のエゾアジサイの群落を参加者に指し示す。是非夏には再訪してほしいものだ。

同窓会林の核心部では道路上のエゾアジサイの処理もあつて参加者の方々に採集をお願いする。手にはショベルやスコップに加えてビニール袋を持って道路の奥に入る。足元にはスダヤクシュの群落やオオウバユリ、ツクパネソウ、クルマバナソウ、花期の終わったばかりのルイウショウマ、斜面にはマイズルソウが踊っている。アイヌタチツボスミレやエゾノタチツボスミレ、タチツボスミレが混在。クルマバナツクパネソウが時々見えるが「突く羽」になっている。あたりの草に絡みつくツルニンジンには例年より少なく見えた。

幹や茎、柄はトゲがあつて荒く痛いのだが葉は手のひら形で私好みのセンノキがあちこちに生えている。法面には葉の形が明らかに違う個体が並んで生えていた。育つのだろうかと楽しみになる。

エンレイソウは既に実になっているが「山ソバ」として食するにはまだ早い。ナルコユリ、ホウチャクソウ、アマドコロは判別しにくい、法面で花を落としていても実も付いていない感じに見えるのは長雨で虫が飛べない事情もあるのだろうか。玄人好みのエゾテンナンショウはそこ此处で散見できる。

湧雲の湧水でコーヒー用の水を汲むために崖を下り。此处にトチバニンジンらしきものが生えている。後ほど確認のために再度入山しよう。湧水の側にはサンカヨウが花期を終えていた。春に来たときは大きな山石が湧き口に落ちていたが除去す

るには大変な重さの石だった。ペットボトルに水を詰めて崖を登る。

ここを退去して桜の記念植樹会場の石碑のある場所へ向かう。途中で道路脇のノビネドリを下車して見学。車に踏みつけられそうで踏まない危うい居場所だ。すぐその卒業記念植樹の会場で下車。タニウツギの紅色を確認する。まだ少し早いかな？

ぐる〜と回り込んで広場で停車。足元にはニシキゴロモが・・・と思ったがウツボグサと間違えていた。大変失礼致しました。手前の曲がりカーブで各種ツリバナ類とホザキナナカマドの花期のご案内をしておく。あたりはヨツバヒシドリが秋を待っていて、フッキソウは新芽を伸ばして目立たぬ花を咲かせていた。白い実が付くまでにはまだ間がありそうだ。

ここから沖里河山の頂上を目指す。道路脇のベニバナイチヤクソウを案内し、敷き詰められたマイズルソウを眺めながら頂上直下の駐車場へ。意外なことに初めて来た人が多くて嬉しい。なんだかんだと頂上への階段を登る。僅かの距離だが息切れがしている。頂上広場のコケモモ、ハナヒリノキ、オオタカナバラを見て階段脇にルイウボタンを確認。クロツリバナやサワフタギ、オオカメノキに見送られて鳩の湯方面に迂回した。

途中、本日のサプ会場の満開のタニウツギの大株を眺める。山間でピンクに染まって美しい。この頃少し霧雨模様になってきたが全く予想外にも雨に当たらず此処まで来た。晴れ女が多いとか・・・エゾノツバムグラやツタウルシにわいわいがやがや。此处でクマザサの花とレイジソウの説明をしようと思っていたが雨模様が進みそうだったので本日のメイン会場へ車を急いで進ませた。

ややあつて、ベニバナイチヤクソウ群落地に着く。笹藪の中に点在するミヤマガマズミの白い花を背景に濃いピンクの紅すずらんとも例えられる一葉草が足元に立ち上がっている。相当広い範囲に咲き誇り、しかも可憐な花達が霧雨を収めてくれたのか至福の時間を作ってくれた。時間も押してきてお昼に近くなってきた。

心残りを感じながらメイン会場を後にした。道路脇の林立するオオウバユリ街道を横目に鳩の湯温泉側に到着する。最終版は霧雨に包まれ黄色に揺れるキンボウグ、挟んでヒトリシズカの群落はきっと春一番には見事だったろうと想像させるには余りあるほどの規模だった。クサノオウはひっそりとクロツリバナの下で咲いていた。

温泉の建物が見えない位に草が伸びているのかと思い、道路が付いていたので歩いていった。終点で目にしたものは栄華盛衰。道路と温泉とは橋でつながっていたが建物は廃屋を通り越し倒壊し、屋根の一部が橋の上に覆いかぶさっていた。雪の重みで昔の面影も想像出来ない位に破壊されていた。近くにこなければ遠くからは判別できない理由はこれだった。

帰り道、ウスバシロチョウが雨に濡れて草にしがみついていた。その側の柳の葉にはヒオドシチョウの幼虫が食事中で、笹の葉には大きなヨシカレハの芋虫がくっついて、このあたりが自然に戻りつつあることを実感した。かつて人が居たことを教えているかのようで、足元の草の陰にピンカの紫色の花が淋しげに一輪咲いていた。

こうして雨にも逢わず音江の山野草を巡る時間は終わりを告げました。

資料収集のお願い

毎度のことですが古い資料を探しています。年数を経ると貴重な資料も散逸して確保が困難になります。ご提供いただけるものがあれば是非お願いしたいです。お借りできるものはコピーをしてお返しします。

中でも学校祭やコーラス大会などの行事のプログラム、各クラブや部活の機関紙などです。特に文芸クラブの「うまごやし」などがあると良いですね。

六十年記念誌、七十年記念誌などに資料の明細が出ていますので参考にしていただければ幸いです。関係のない人にはゴミでも関係者には宝です。在校中の資料をお持ちの方にはご協力よろしくお願い致します。

昨年は数点、ご提供を受けました。大切に保管してありますが歴年の風化で確認できない状況のものもありますので一部デジタルデータにしました。

鉄をも溶かす炎を燃やせ...

燃えている同窓生紹介

菊野 昌宏

1983年 深川市生まれ。平成13年3月卒業（53期生）

世界で3人しか居ない独立時計師。

世界のトップレベルを誇る日本の時計産業の中でも、独立時計師が活躍できるほどの成熟は見せていない。

彼の作る時計は設計、デザイン、製造、仕上げ、組み立て、調整それぞれの工程が1人の時計師によって行なわれるため、作り手の思いが究極に詰まった一品と言えます。「意志と情熱があれば、部品は手作業で作れる。思いのこもった部品で時計が作れる」こうして「手作業」というスタイルが確立したのです。気の遠くなるような時間を積み重ねながら次々に世界に一台しかない手作りの逸品を生み出しています。

【作品】

季節の変化に伴って自動的に変わる「和時計」

折鶴が動き出す「折鶴」

<http://www.masahirokikuno.jp>

創立20周年記念誌・復刻版頒布のお知らせ

本校の記念誌である「創立20周年記念誌」が昭和33年9月6日に発行されました。この復刻版の残部が多少残っていますので再度ご案内いたします。20周年記念事業協賛会と生徒会とが編集委員となって編集発行されたもので現存する部数も少なく資料としても貴重なものです。

(B5判102ページ) 頒布価格・郵送料込み 1,900円

入手希望の方は下記口座に郵便振込にてお申込みください。

校歌・学生の歌・逍遙歌のCD頒布のお知らせ

CDは卒業生へ記念品として贈呈しています。同窓生の皆さんの中で入手希望の方が居られましたら郵便振込にてお申込みいただければ送料込みの1,000円にて頒布いたします。

入手希望の方は下記口座に郵便振込にてお申込みください。

緑の学び舎運営委員会・五周年記録史

「緑魂は時空を超えて」頒布のお知らせ

別掲載にて詳細省略

(A5判 154P ほとんどカラー) 頒布価格・郵送料込み 1,000円

口座番号は02770-2-45435

加入者名・北海道深川西高等学校同窓会

同窓会活動へのご寄附お礼

今年5月には札幌の宮脇 敬さん（4回生）から再度のご寄附を賜りました。宮脇さんには数回にわたってご援助を頂きました。このお力で学校の校庭に桜を植えたことは既報の通りですが、第5回になる卒業記念植樹事業も充実を図ることが出来ました。未来を切り拓く生徒諸君の記憶に残る事業の継続の糧にしています。又、プレス幕の一回り大きなサイズを作成させて頂きました。

又、同窓生の皆様には同窓会の運営、会報の発行、名簿の発行、周年記念事業、在校生への支援等々と節目節目に本当にお世話になっていますことに、再度厚くお礼申し上げますとともに今後も引き続きご支援を賜りますようお願いをいたします。

学校祭

この会報では巻頭言で学校長の挨拶を頂くところですが二号からはずいっと学校行事の挨拶を転載しています。同窓生に臨場感溢れる現状を知って頂き、時代の流れを理解して頂く事がこの会報の役目なのかと思ひ紹介させて頂いています。

第六十五回学校祭

今年のテーマ 感学風動

日程

七月五日 開祭式・連合演劇・吹奏楽・アピール・生徒会企画
七月六日 連合演劇・生徒会企画・行燈行進・行燈フィナーレ
七月七日 総後片付け・閉祭式

おめでとう！ 第65回学校祭

校長 岡戸 康 浩

本校の伝統ある学校祭が開催されます。生徒会執行部を中心に、早くから準備を進めてきてくれたお陰で、無事学校祭を迎えることが出来ました。心より感謝申し上げます。

さて、学校祭を見れば、その学校文化の質がわかると思われます。

本校は、行灯・アピール（パフォーマンス）・演劇で各連合の取り組みを発表してもらいます。特に三年生は、これまでの経験を生かし、綿密な計画のもと後輩たちに的確な指示を出して、創造性豊かな作品に仕上げてくださいと思います。責任者の方は、準備期間から今日まで心休まることがなかったことでしょう。しかし各連合の仲間思いやり・協力で困難を乗り越えることが出来ました。今

は、大きな仕事をやり遂げた充実感で一杯でしょう。お疲れ様でした。今日からの三日間、青春のエネルギーを発散して深川西高校の伝統に新たなページを加えましょう。そして、本校に期待する保護者・同窓生・地域の方々に「我が母校 深川西高校 ここにあり」と声高々にアピールし、感謝の心を届けましょう。

学校祭の変遷が社会の変わりようと密接に関係しています。

昔の教室での展示や発表を知る同窓生にとっては写真、華道、美術のみになりましたが、バザーも保健所対応の中で昔のように作って販売は無理になりました。若さを充分に発揮できるのは校舎前で繰り広げられる組別のアピール合戦でしょう。独創的なダンスや選曲で別世界のような空間です。フィナーレの花火大会も生徒たちの大きな楽しみな催しとなりました。時代が変わっても若さの世代はかわりませんね。生徒の熱い夏も終わりました。こうやって仕組みや内容が変わっても、先輩から後輩へと流れはつながっています。



同期会

開催情報

7期 26年9月5日（金）14:00

代表・小川 慎一 会場・札幌市中央区北2条西5丁目 KKRホテル札幌 札幌市中央区北2条西5丁目 会費・5,000円

15期 26年10月4日（土）

代表・菅原明義 会場・札幌市2条10番1号 ブラザ・富士屋 会費・12,000円 テーマ・古希を迎える同期会

18期 26年7月12日（土）16:00

代表・宮澤孝司 会場・札幌市3条6番7号 ブラザ・富士屋 会費・7,000円

21期 26年9月20日（土）17:00

代表・伊藤 隆 会場・札幌市中央区南一条西1丁目12-1 札幌第一ホテル 会費・10,000円（二次会含む）

31期 26年8月16日（土）

代表・宮澤孝司 会場・札幌市3条6番7号 ブラザ・富士屋 会費・7,000円

第十七回 同窓の夕べ盛大に開催

第十七回「同窓の夕べ」が平成二十五年九月二十一日に参加者二一二名を得て盛大に開催されました。世話人は末尾「六」の期で構成。札幌からかけつけた三十六期宮内文恵さんの進行で開始。開会に先立って例年通り吹奏楽の演奏から始まりました。局員が減って編成が小編成となりましたが例年通り狭いステージを物ともせず、ノリノリで元気にオープニングを飾ってくれました。

星野実行委員長の挨拶、大西会長より参加者へのお礼、松本教頭より簡単に学校の近況を報告して頂きました。引き続き五回生・福井郁郎さんの音頭で高らかに乾杯。楽しい宴に入りました。今回もビュッフェ形式のお料理でお腹を満たし、美味しいビールでのどを潤しましたが序盤はあつという間に料理消滅。後半で出てきた料理は残って残念でも参加者一同満足。

三十六期・水上さん指導のお腹空かしを兼ねて脳トレ健康体操は高齢者には良い刺激となった。同窓会お名前ピンゴは二十六期、ジャンケンボンは三十六期、お楽しみ抽選会は四十六期と五十六期で担当して夕べを盛り上げてくれました。宴も終盤に入り、加藤公一さん指揮、山岸久仁子さんのピアノ伴奏で参加が三人となった旧中先輩が「雪解の水を湛えたるよ」を高らかに熱唱。引き続き全員で久し振りの校歌を歌いました。

最後の締めでは星野実行委員長から引継旗が次期実行委員長・中本博太さんへ手渡され次回への決意表明。盛会の中、夕べは閉会となりました。



松本教頭



乾杯は福井郁郎さん



大西会長



星野実行委員長



進行 宮内文恵さん



会場風景



健康体操は水上さん



大抽選会



お名前ピンゴ



中本次期委員長



開催旗引継ぎ



旧中学校歌唱

同窓の夕べ 開催のお知らせ

第十八回「同窓の夕べ」を次の通り開催致します。

日時	平成26年9月20日(土)
開演	午後6時 (吹奏楽部の演奏)
開会	午後6時30分
会場	プラザホテル板倉 (深川市3条6番)
会費	2,000円(当日券あります)

実行委員会は十七期、二十七日、三十七期、四十七期、五十七期が担当です。実行委員長は十七期の中本 博太さんです。

毎回ジャンケンの勝ち残りの期は同期で二次会の費用にしているようです。

お名前ピンゴ完成で「ピンゴ」で挙手してステージに走りだすのがたのしいし、毎年、趣向を凝らした商品での抽選会での盛り上がりが親睦を深めます。

昨年からの開催日を変更。九月の第三土曜日に固定しました。遠方の同窓生の方も都合が付きましたらこの日程を合わせて参加して戴けたら嬉しいです。

多くの同窓生の参加をお待ちいたしております。

高校体育連盟大会成績

全道大会

【陸上】 釧路市

[男子]

100m	1-3	長内 大貴	予選敗退
200m	1-3	長内 大貴	準決勝敗退
800m	2-4	高崎 恭平	予選敗退
1500m	3-4	吉川 英大	予選敗退
5000m	2-1	馬場 勝五	予選敗退
	3-1	佐藤 瑞樹	予選敗退
110mH	3-1	山本 豪太	予選敗退
400mH	3-3	平林 優哉	予選敗退
3000msc	2-1	馬場 勝五	12位
400m R	3-1	山本 豪太	
	1-3	長内 大貴	
	3-3	平林 優哉	
	2-3	谷村 拓海	予選敗退
走幅跳び	1-3	長内 大貴	予選敗退
砲丸投げ	2-3	谷村 拓海	予選敗退
	3-4	中村 啓斗	予選敗退
円盤投げ	3-4	中村 啓斗	予選敗退
	2-3	谷村 拓海	予選敗退
ハンマー投げ	3-4	中村 啓斗	予選敗退

[女子]

800m	2-2	北井 里実	予選敗退
1500m	2-2	北井 里実	予選敗退
	2-2	小山 菜月	予選敗退
3000m	2-2	小山 菜月	予選敗退
円盤投げ	3-3	羽二生 絢	予選敗退
やり投げ	3-3	羽二生 絢	予選敗退

【バトミントン】 小樽市

[男子]

団体	北北海道 3位
----	---------

[女子]

団体	北大優勝・全道決勝2位
ダブルス	上川あかね・花田 優依組 北大優勝 全道決勝2位
	牧野つくし・高澤 麗華組 北大3位
	関根 千弥・佐々木百花組
シングルス	花田 優依 北北海道 3位
	関根 千弥 北北海道準優勝

【バレーボール】 釧路市

[女子]

予選グループ戦突破できず

【卓球】 芦別市

[男子]

学校対抗戦		1回戦敗退
ダブルス	平賀・定岡組	敗戦
	黒田・内譚組	敗戦
シングルス	平賀	2回戦敗退
	黒田	1回戦敗退
	定岡	3回戦敗退

[女子]

ダブルス	榮・辻本組	敗戦
------	-------	----

【放送】 千歳市

創作ラジオドラマ部門 入賞ならず
テレビドキュメント部門 入賞ならず

【野球】 旭川市 一回戦敗退

【ソフトテニス】 帯広市 8月11日～

【水泳】 野幌にて 予選敗退

第五十八回コーラス大会

— 早朝から、さわやかな歌声が校舎に響くようになりました。新学年がスタートして間もないこの時期に、会場の「み・らい」のステージで様々な問題を乗り越え突き破った十日間を燃焼させました。今年も又、五十八回目の新たな感動を抽出し、永き良き伝統を後輩に伝えて終了することが出来ました。



課外活動

美術部・写真部合同展

2014年3月16～30日

アートホール東州館市民ギャラリー

インターハイ輝け！

2014年(平成26年)7月2日(水曜日)

深川西女子バド「団体8強を」

複、単も出場

【深川】深川西女子バドミントン部は、2014年(平成26年)7月2日(水曜日)に、旭川市で行われたインターハイ(全国高等学校総合体育大会)のバドミントン競技に出場した。団体戦では、8強を突破し、準々決勝に進出した。また、複合戦でも出場し、準々決勝に進出した。この大会は、深川西女子バドミントン部の歴史の中で、初めて8強を突破したという快挙を達成した。また、複合戦でも準々決勝に進出した。この大会は、深川西女子バドミントン部の歴史の中で、初めて8強を突破したという快挙を達成した。

インターハイ出場



我等が同期同好会

或る期では同好の士が色々な事を
楽しんでいる所があるようです。今
号ではそんな楽しみや事業を行なっ
ている期を紹介しします。

15回生「スキーで この指とまれ！」

今年も如月末から弥生にかけて、旭川空
港に降り立った本州組に、迎える地元組が
加わり揃ってカムイスキーリンクスへ直
行。存分に滑って、富良野のホテルへ移動。
翌日は富良野で終日を過ごす「板も滑る
口も滑る、スキー三昧2泊3日」を開催し
ました。

道北、道東の暴風雪大荒れの天候を聞く
につけ我等仲間達の強運に支えられ
て、樹氷に彩られた純白と抜けるような青
空の中での滑走に感激、感銘しています。
体力の衰えは感じているが同期の皆は益々
元気になっているような気がします。

還暦は60年一巡りで生まれ変わるることか
ら、長いようで短かった還暦を終えて一息
ついた時、「何かやるか!!」誰とも無しに
呼びかけあい賛同者一同一念発起。平成19
年62歳でカムイリンクスとニセコから始ま
り、ナント今年は69歳です。スキー大好き
多いに自慢すべし、我等パンザイ!!西高ハ
ンザイ!!疲労も残るがなんのその。来ジ
ズンは70番(才)のゼッケンをつけて「矢
のよう」に滑る決意をいたしました。
今の時代のように家で楽しむも無く、
外で一杯遊んだことが楽しかった45年前
を思い出して「スキーでも楽しもうや!!」の
呼びかけに年々全国から参加が増えて15名
のメンバーが入り替わりながら7年。日中
は滑るは滑る、スキー三昧。夜は痛快、妖
艶な会話で口が滑るは滑る、おしやべり三
軒。楽しい中に高齢者予備軍を忘れ、意気
軒昂のなかで年齢を重んじています。何年経
ても判りませんが楽しく体の許すかぎり集り
たいと思っていますので一層トレーニング
に怠りません。「我も!!」と思われ方はス
キーでこの指とまれ!! (石黒 計)
平成26年2月

17期・ぱつと集り パット盛り上がる

6月14・15日、秩父別「ゆう&ゆ」で今
年も名目は「ゴルフ大会」という事で開催

したが参加者は道内を中心に26人、そのうち
ゴルフをした者は9人しかいない。有志
で集ったゴルフは4年連続となるが昨年
から「ふるさと回帰同好会開催補助金交付
事業」を始めた同期の秩父別・神楽町長の
施策を応援する意味でさらに盛り上がり
した。今年は近隣だけでなく千歳から
も参加一名。パークゴルフで盛り上がり
泊り込みで夜通し話込んで盛り上がるなど
すっかり同期の人気の集まりとなった。
本来の同期会はオリンピックの年に開催
することになっているが待ちきれない者同
士が「卒業50年記念修学旅行」と銘打って
15名ほどで京都、大阪、東京と格安4泊5
日の旅行を決行。交通費は安く、料理は豪
華に合言葉に、行く先々で在任の同期を
巻き込んでの楽しい旅行となった。それ
で、来年はどのようなことやら。それ
も「集れ!!秩父別」となるでしょう。
(濱田靖夫)

「八十年代半ばのエッセイ集」 のまえがきより

われ等旧制深中五期生は、戦前の昭和
十七年四月、北海道庁立深川中学校に入学
し、戦後の昭和二十一年三月に四年で、ま
たは昭和二十二年三月に五年で卒業した者
である。同級生約百八十名のうち半分以上
の人は亡くなった。この五期生の生存者の
有志でつづけている親睦団体「深中五期会」
は毎年懇親会を開催しているが、年齢と共に
その出席者も減少気味である。ここ数年、
この「深中五期会」には会員各位からの篤
志寄付があつて、その会計には余裕ができた
ことから、この余裕金の活用について、
平成二十五年九月の懇親会出席者で相談し
ました。その結果、懇親会への出席が困難
な人のことを考え、生存している同級生の
有志にお願いして、いろいろな思い出や現況
など、いわば深中五期生有志の「八十年代半
ばの思い出」を纏めて小冊子にしてみよう、
ということになりました。平成二十五年九月、
同級生約四十名の方にこのエッセイ集の原
稿を依頼し、平成二十五年末までに二十名
の方から原稿が届きました。それを纏めた
のがこの「八十年代半ばのエッセイ集」です。
(以後省略)
平成二十六年一月(平林 勇)

※ 発行された小冊子の中から長縄さん、
沼田さんのエッセイを転載いたします。

「人生雑感」

長縄 武

一期一会の黄昏の日々を味わいながら、
来し方を振り返れば、延々と幾山河…。色々
なことが脈絡もなく想い出される。

八月十五日、深川で玉音放送を聞いた。
当時中学生は農作業に動員され、更に教練
を通じて、やれ予科練だ、陸士だ、海兵だ
と心身共にしごかれていた。何れは死とい
う緊張感から突然解放されて、十五歳の若
さは素直に感応して何とも言えぬ解放感か
体全体から湧いてきた。

その日以来、「山のあなたの空遠く…」
の芽生えが始まった。わが身の平凡な人生
を回顧して、あの時が一生の分かれ道だっ
たなあと終生思い出される幾つかの事柄の
一つに、終戦の翌年北大予科に何とか滑り
込んだこと。

青春ならぬ清貧の学生生活を経て、昭
和二十七年に砂川の旧東洋高圧(株)、
三十六年には東洋エンジニアリング(株)
に移籍した。爾来七十歳まで、化学工場の
設計、調達、建設、運転などの仕事に従事
してきて、その間、モスクワへ十回行っ
たのを始めとして、世界各地二十数ヶ国で
の工場建設の責任者をしてきた。バイカル
湖での船遊び、歌にある「♪ここは地の
果アルジェリア」の力スバの酒場を見てき
た。ケネディ大統領暗殺の時はアメリカに
滞在し、ベルリンの壁崩壊の時は東独
に滞在し、更にパングラティッシュ独立の
時にはベンガルタイガーとして有名な軍隊
に護られて工場建設をしたことなど。ずい
ぶん危ない橋を渡った波乱万丈の「一齣」
が昨日のように蘇ってくる。

さて、熟年ともなれば、少しは他人に自
慢できる病気の二つや二つは持っているも
のである。私は冠動脈二本で生かされてき
て今年で二十八回目。この間は死生観、価
値観などの見直しと与えられた死生観と思
っている。明日の保証のない命が延々と瓦全
の日々を支えている。そして何回かの不
思議な力や縁に助けられてきた。改めて
多逢聖因、縁起機妙の不思議さに驚かされ
ている。所謂、人生は邂逅と別離とに要約
されるのだろうか。
今更わが人生の秋を彩る紅葉をも期待し
ていないし、わが生涯を飾るべく画電点晴
の一筆として加える何物もない。願わくは
微風に落ちる路傍の草葉の露の如く、ある
日コトトリとお別れしたいと念じている。

駅伝の思い出

沼田 馨

駅伝に出ることになった頼末を遠い記憶
から辿ってみました。昭和二十一年のある
日の放課後、担任の岡田先生と針金屋先生
からの呼び出しで職員室に来るように言わ
れて、何事か行つてみると両先生がおられ
て、何となく昔と違う雰囲気、馬鈴薯の
塩茹でがあつて、「まあ食べながら話をし
よう」と始まったのが駅伝の話。その内容
は、駅伝で「先輩達は旭川市内を出て四、
五kmの所にある山越えでいつも失敗してい
るのだ」という。一つは、この山越え
はお前が適任だと思つたので来てもらつた
のだ。と言つてくれた。この時期、駅伝
をやつてみたい級友と下級生がいて練習が
始まっていたのは知っていたが、自分とし
ては、駅伝のことは一切頭になかったのが
本音。両先生の話は正に青天の霹靂だった。
陸上では全空知大会で千五百mを走り優
勝したのが一番長い距離。長距離なと思つ
てもいながら、が、両先生に押されて多
分おだてられてのことだったと思うが、得
られたような気がします。結果、壮行会
ではホバを挨拶をする羽目になりました。
その後、競走の前日旭川にいらした岡田先
生の知人とかの家に連れて行かれた。場所
は映画館通りの近くだつたように思いま
す。その折、藤岡先生も一緒に泊ることに
なつていたので、私は戸惑うばかりでし
た。しかし、驚いたのは普段接している両
先生ではなく、優しい感じがして、もう
い感謝々々。甘んじていた次第でした。そ
の時、先生が映画でも観て来いと言つて
見せてもらったのを記憶しています。夕食
はそれなりに御馳走だったように思います。
全道の駅伝大会競技当日は、十七、八校
の参加だったと思います。競技区間は旭川
から札幌まで、ランナーが四人、自転車
が三人の計七人で、私が一区のランナー。
旭川市内を出て山越えしたあたりで伴走自
転車が待つていてくれ、神居古潭近くまで
走つてくたさる、はげましとハッパをかけ
られたように思います。お陰で神居古潭の
中継点では、一位のものから電柱二本くら
い離されましたが四位で襷を渡すことが出
てきました。途中、ランナーと自転車と整齊
、ラストはランナーの名取川君でその途中か
ら私が伴走し、北海道新聞社前のゴールに
入り込みました。この総合結果は記憶して
いる方もいるかと思いますが、自転車組の
北村秋利君、大橋 修君と一級下の加納君
たちが力走してくれて、総合二位の成績を

どろやなぎ

(編集後記)

▼大先輩が石狩川の河畔から採取してグラ
ンド廻りに植えたドロノキも記憶の中に残
るだけになってしまいました。四回目の卒
業記念植樹にはそのドロノキを植樹しまし
た。記憶を風化させないためにも大きく育つ
てほしいものです。

▼二十四年一月、深川橋の西側に歩道が付
きました。その時、初めて西側の情景を眺
め小州に小さな柳の樹が生えているのを目
にしました。二年経った今、柳が幾度も増
水に見舞われながらもたくましく太さを増
して小州に存在しています。
回を重ねて漸く第六号の発行が出来まし
た。手刷りの会報発行から中州の柳の如く独
断気味で突き進んで通巻十六号になります。
確実に年数を刻んでいます。皆様のご支援
に感謝します。

▼偏西風の蛇行が気候変動に大きく影響
していますが観測記録に迫った新記録に
なつたりと皆さんの不満も高まっているよ
うです。地球の歴史上で相当数いたと思わ
れる恐竜も消滅した原因もまだわかってい
ません。温暖化がいつ寒冷化するかわか
りません。人類の英知、文明の進化を享受
する流れから抗し切れませんが自然のまま
をもっと受け入れたらいいなどと賛言を言っ
ています。

▼東北震災から忘れてはいけないことを
教訓として得たもの、やがては忘れられて
いく。戦争から大きな痛手と引き換えに得た
ものや、大事にしなればいけないことも忘
れられたり歪められたりしていくことに大き
な不安を覚えます。そうやっていく流れの中
に見えない大きな力を感じます。

▼前々号からお知らせしているように第五
号からは全員に送付していません。方法は
変わりますが引き続き会報発行にご協力下
さいますようお願いいたします。又、お知
り合いの同窓生で未読で購読希望の方がい
ましたらお知らせ下さい。